

1. 建物概要						
建物名称	日本大学国際関係学部図書館兼管理棟(仮称)新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 /5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.3	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)				
 <ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③ glare対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①AW建具に関してはT-2以上の遮音性能を有している。 ④外壁はRCとし、アクリル樹脂系上塗材を使用。 ④給水:SGP-VB、汚水:硬質ポリ塩化ビニル管(耐火二層管)を使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤建物の外皮の一部を壁面緑化とすることで、建物緑化指数を30%以上確保した。 ⑥室外機を屋上に設置することで、GLから10m以上離れた。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑧スウィンドウによる自然喚起システムを設置。 ⑨LED照明の採用した。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑫再利用できるユニット部材を用いている。 ⑬F☆☆☆☆のものを使用する。(小屋裏含む) 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
	 <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯耐震設計として静岡県地震地域係数Zs1.2を採用。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	2.9	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		
 <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー新法の建築物移動円滑化基準を最低限満たした計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑中庭やテラス、バルコニーを設置し、風や光が通り抜ける開放的な空間とした。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由度 Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			
 <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑳建物の外皮の一部を壁面緑化とすることで、建物緑化指数を30%以上確保した。 ㉑キャンパス内建屋のレンガ外観と合わせて建物外皮にレンガ調のテラコッタを設置した。 ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉒温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉒外壁面対策面積を11%とすることで、建築外装材料等に配慮し敷地外への熱的な影響を低減した。 	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉑ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑳ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉒ 温熱環境悪化の改善	2.6		

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本大学国際関係学部図書館兼管	階数	地上4F
建設地	静岡県三島市	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,024時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2026年1月26日
敷地面積	111,854㎡	作成者	中山貴
建築面積	2,104㎡	確認日	
延床面積	6,509㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 図書館及び管理棟の機能的な役割に加え、ラーニングcommons、グループワークエリアなど学生がコミュニケーションを図るエリアを計画することで、自主的な学び、自由な交流を促す『学びの場』を創出した。これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 特になし。
Q1 室内環境 用途ごとゾーニングを行い適切な温熱環境が得られるように配慮した。特に3層吹抜け空間には、Low-Eガラスを用い、紫外線を約84%カットしており、ロールブラインドを設置すること	Q2 サービス性能 正門付近に配置された図書館は、大学の新たなシンボルとなることを配慮し、外部からも温かみを感じられるように木質空間を計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地の南側に隣接した中学校に対しては、外壁にワイヤーと植栽ポットを配置し、緑のカーテンを計画した。また、キャンパス内建屋のレンガ調を踏襲し、テラコッタレンガを利用すること
LR1 エネルギー 熱貫流率の低い断熱材、ガラスを使用することで建物外皮の熱負荷を抑制している。また、階段室内の排気スウィンドウにより、自然通風利用を行なっている。	LR2 資源・マテリアル 大便器、小便器などの衛生器具類は節水型器具を選定し、水資源の削減を図っている。	LR3 敷地外環境 計画建屋に付属する駐車場計画に留まらず、敷地内において駐車場、及び駐輪場を整備することで、敷地外に路上駐車させないよう、配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される